参考様式B5（自己評価等関係）

公表　放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	スカイ3			
○保護者評価実施期間	令和7年10　月　20日		～	令和7年11月４　日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	15名	（回答者数）	14名
○従業者評価実施期間	令和7年　11月14　日		～	令和7年11　月17　日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5名	（回答者数）	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和７年11月２８　日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合った空間となっていると思いますか。にチェック者全員が「ハイ」の回答をいただく。	環境設定には快適に過ごせるように配慮している。また感染症には十分気を配り、備品やトイレ、玄関等の消毒は徹底している。それと、活動と人数によるスペースの確保も考え快適に過ごすこと、物事に集中できる環境設置にも気を配っている。	さらに気を付けていきたいことは、消毒等は毎日行うこと、備品等のチェックなどを怠らないこと。職員全員が分担をして作業を行った後、職員同士交代してチェックをすること。そして今後はどのようにしていくことが能率よく快適に過ごすことができるかのアイディアを出し合っていくようにしたい。
2	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）（※3）が作成されているにチェック者全員が「ハイ」の回答をいただく。	初めてご利用のお子さんが多く、保護者様も不安に思うことが多々ある思うし、何をどのように質問すればよいのかを思ってみえることもあり、結果「わからない」という回答がかえってくる項目もあると考える。個別支援計画作成について保護者様のご協力が不可欠である。その間、お子さんの自宅での様子や保護者様のお子さんに対しての考えを把握するようにしている。	さらに、アセスメント後→会議（職員）→原案作成後→保護者様に説明→サービス開始→個別支援会議（職員）→個別支援計画原案作成（職員）→保護者様に説明と段階を踏んで見落としなく１年間スムーズに進めるようにしていく。その間、必要に応じて保護者様からの相談事には積極的に対応していく。
3	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。（利用契約、重要事項についての説明）チェック者全員が「ハイ」の回答をいただく。	内容的に多く、すべてのご理解は難しいと感じる。事業所としてすべて知っておいていただきたい内容であるが、特に大切である部分は、詳細に説明をしているつもりである。	保護者様に対しての説明が端的にされているか、ご理解いただけたか、また確認済みであるかを目的にする。そして再度「どこか気になったことはありますか」などの言葉かけをしてみてはどうかと思っている。
	○日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。(連絡ノート,電話,LINE等) ○必要に応じて、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。 ○保護者のレスパイト（休息）が出来ていますか。に関して感謝の気持ちと気遣いへのお礼をいただく。	保護者様から感謝の気持ちをいただき、事業所としては励みになります。お子様や保護者様に安心してご利用いただくような工夫、アイディアを提供することが重要だと考えている。	保護者様からのアンケートの中で事業所の課題となる言葉を多くいただくと一旦落ち込むが、さらにすべきことを話し合う姿勢を持つ。まず「個々に今以上にどのような支援が必要か」「細かい支援方法・普段の行動から適切な支援内容を考える」などの課題を多方面からさらに出し合って検討していく。保護者様もそれぞれ個性があり、意見も違うことから、どの保護者様にも柔軟な考え方で対応して行くなど、再度心がけるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されているかについてどちらも言えない。	スペースについての広さは十分に確保されていることを実際見ていただいている。	契約時に、1人に必要なスペースの確保の説明と各3か所のそれぞれの活動の部屋を見学いただいたが、質疑応答の時間もとることが必要なのか考える。とにかく保護者様の個々に対する説明の在り方を今後検討する。
2	父母の会・保護者会等の開催等による保護者同士の交流や家族への支援、またはきょうだい向けのイベントの開催等によるきょうだい同士の交流やきょうだいへの支援などの機会があれば参加したいと思いますか。に対して、どちらとも言えないとの回答	特に父母の会に関しては、保護者様からの要望もなく、事業所側も積極的に誘いかけたこともなかった。またきょうだい同士のイベントや交流、きょうだいへの支援は、事業者内ではきょうだいでご利用していただいている方には、保護者様の要望をお聞きしながら進めている。	今後は父母の会など、事業所で考え事業所の個性を出しながらリバイスする必要がある。
3	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動することを希望されますか。にどちらとも言えないの回答	交流が必要となる場面をしっかり考えて保護者様に伝えていなかったのではないかと振り返る。	保護者様からの声を待つのではなく、こちらから左記の機関に出向き、前向きに話し合うようにしてみる。その後保護者様に提案をして見てはどうか。
4	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。に警報時の対応連絡が早く欲しい。	「事故発生の防止及び発生時対応の指針」を契約時に配布と説明をしているが、記憶に残るように例を出して説明する。	契約時にそれぞれの項目の説明（マニュアル・指針・ガイドライン）に時間がかかり保護者様にとっては多くの理解は困難と見受けられる。保護者様と相談して再度説明とご質問の時間を設けることも検討していく。また日本語以外の言葉での対応は、今後翻訳機を利用していく。（今までは、英語教師が対応）